

6
タビタ
聖徒伝 90

「罪の極みに 陥る前に」

Ⅰ サムエル記27～28章

靈媒に頼んだサウルの大罪

Shikaoichurch.com

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. ペリシテに逃れるダビデ 27章
～詩篇13篇～
- II. 霊媒頼みのサウル 28章
～詩篇109篇～
- III. まとめと適用
霊媒と偶像礼拝の本質に学ぶ



ツィクラグ



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダムの契約

③ノアの契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★

異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 0

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前53

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

【王国時代】

ダビデ契約

【カナン定着・士師時

【荒野の四〇年】

モーセ契約

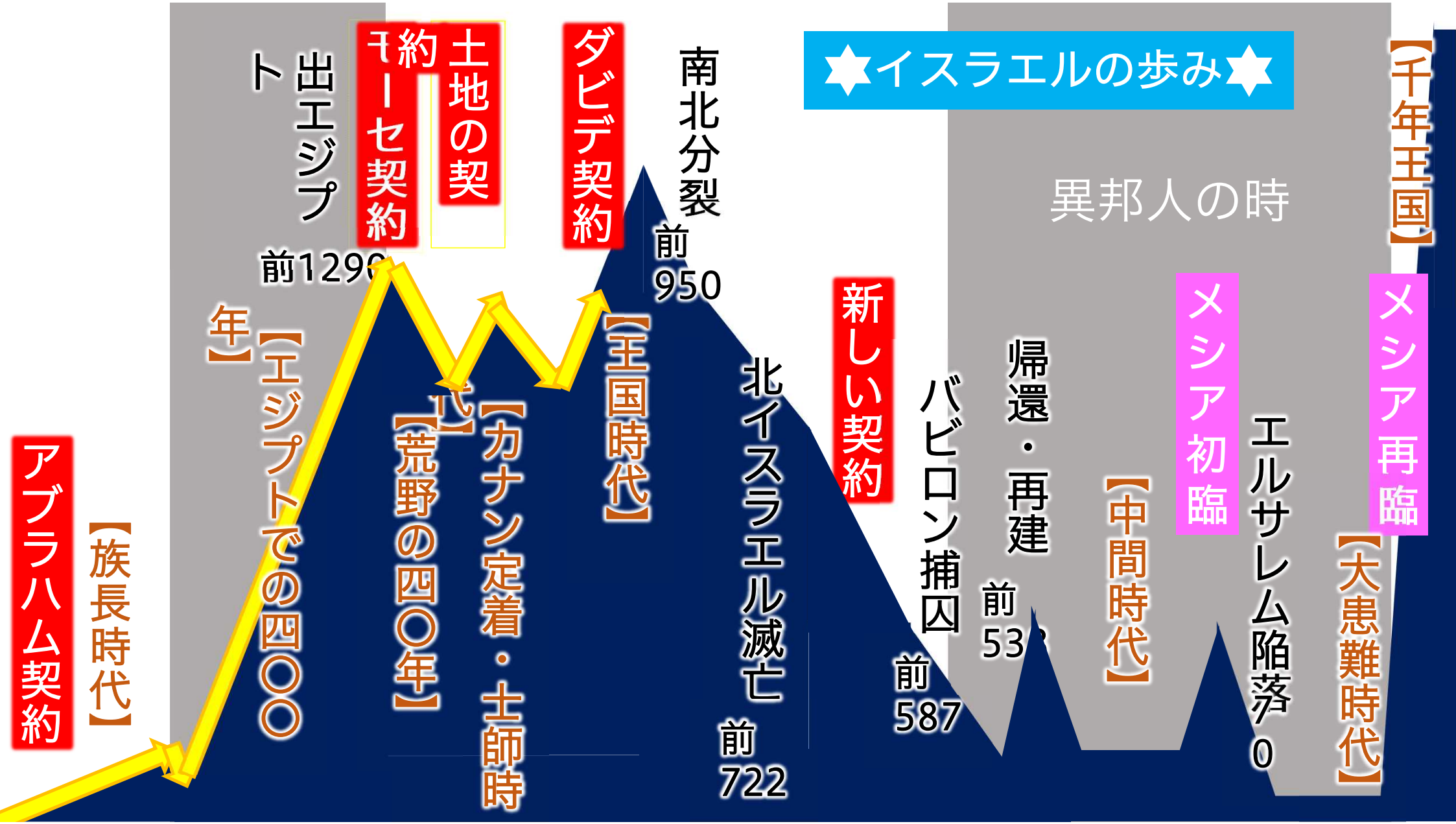
ト 出エジプト

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

【族長時代】

アブラハム契約



サムエル記 第一

士師時代
王政時代

サムエル	1 : 1~2 : 11	サムエルの誕生
	2 : 12~3:21	サムエルの召命
	4:1~7:17	奪われた契約の箱
	8 : 1~9:27	後継者不在 王を求める民
サウル	10:11~11:15	油注ぎ
	12:1~25	士師サムエルの民への告別
	13:1~15:35	王が重ねた神への背き
ダビデ	16:1~13	油注ぎ
	16:14~23	王宮での奉仕
	17:1~58	ゴリヤテとの戦い
	18:1~30	偉大な戦績・王の娘との結婚
	19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
	27:1~30:31	ペリシテ人の地で
	31:1~13	サウルの死



【ダビデとサウル】 | サムエル11～26章

- サウルは、主に背き、神の目に、王権すら剥奪された。
- 神は、御心に叶ったダビデを王に立てた。
- ゴリヤテらペリシテ人を討ち、名を挙げたサウルにサウルは、激しい嫉妬から、殺意を抱くようになる。
- 逃れるダビデをサウルは執拗に追いかけて続けたが、ダビデは、サウルを討つ機会を二度もあえて見逃した。ダビデこそ王だと泣いて認めながらも、サウルは悔い改めにいたることなく、両者の道は交わらなかった。





Ⅰ. ペリシテに逃れるダビデ | サムエル記27章

ツィクラグ

【ペリシテに逃れる】 | サムエル27:1~2

ダビデは心の中で言った。「私はいつか、今にサウルの手によって滅ぼされるだろう。ペリシテ人の地に逃れるよりほかに道はない。そうすれば、サウルは、イスラエルの全領土内で私を捜すのをあきらめ、こうして私は彼の手から逃れられる。」

ダビデは、一緒にいた六百人の者を連れて、ガテの王マオクの子アキシュ*のところへ渡って行った。

*以前、気がおかしくなったふりで逃れた町の王。
➡敵将同士ながら尊敬し合うような関係があった?



【ガテへ】 Ⅰサムエル27:3～4

ダビデとその部下たちは、それぞれ自分の家族とともに、ガテでアキシュのもとに住んだ。ダビデも、その二人の妻、イスラエル人アヒノアムと、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルと一緒にであった。

ダビデがガテへ逃げたことが、サウルに知らされると、サウルは二度と彼を追おうとはしなかった*。

*サウルの王権を脅かすダビデは、異邦人の地へ。

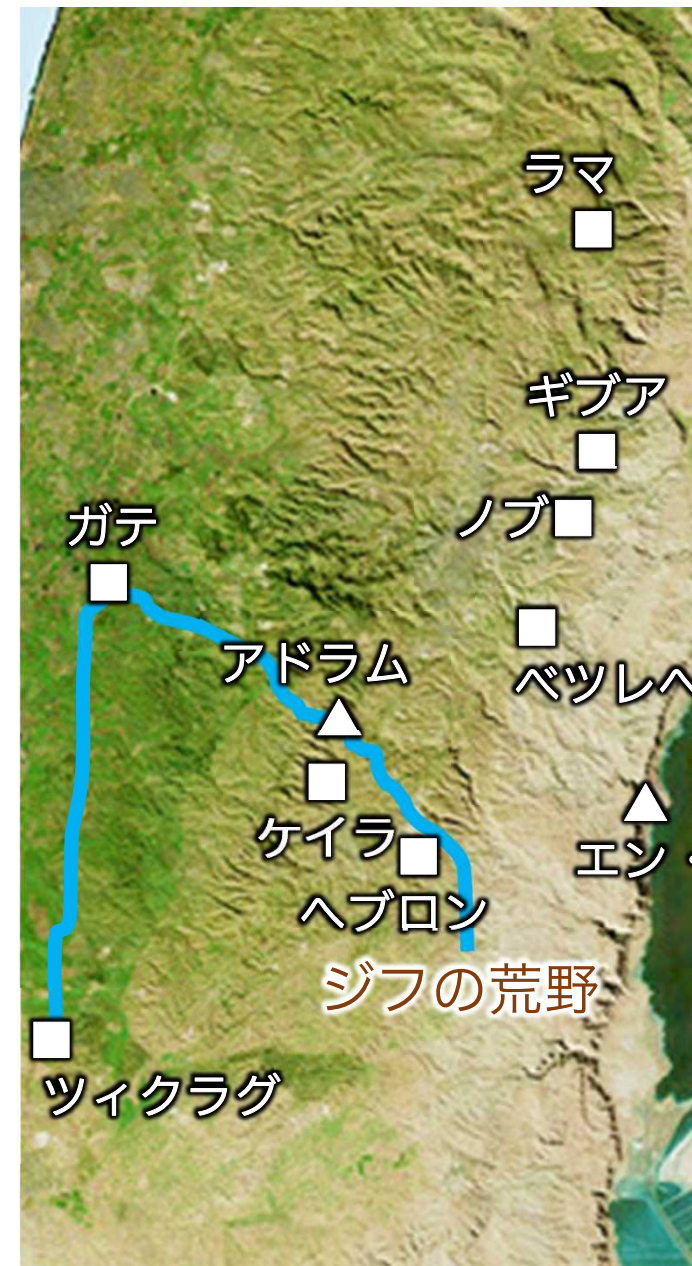


【アキシュの下で】 | サムエル27:5

ダビデはアキシュに言った。「もし、私があな
たのご好意を得ているなら、地方の町の一つの
場所を私に下さい。そこに住みます。どうして、
このしもべが王国の都に、あなたと一緒に住め
るでしょう。」

その日、アキシュはツィクラグ*をダビデに与
えた。それゆえ、ツィクラグは今日まで、ユダ
の王たちに属している。ダビデがペリシテ人の
地に住んでいた日数は一年四か月であった。

*候補地の一つで最近、有力な発掘証拠が!!



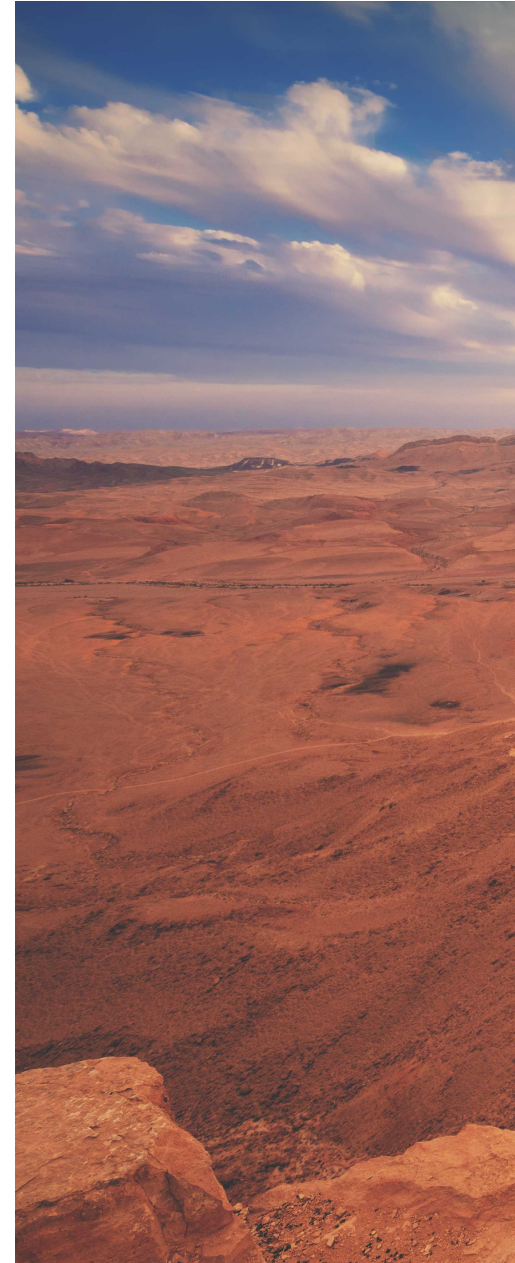
【略奪】 | サムエル27:8～9

ダビデは部下とともに上って行って、ゲシュル人、ゲゼル人、アマレク人*を襲った。彼らは昔から、シュルの方、エジプトの地に及ぶ地域に住んでいた。

ダビデはこれらの地方を討つと、男も女も生かしてはおかず、羊、牛、ろば、らくだ、また衣服などを奪って、アキシュのところに帰って来た。

*いずれもヨシュアを通して**聖絶**を命じられた民。

■ヨシュア時代のイスラエルが**聖絶**し損なった民をペリシテの傘下にあるダビデが討った形ではある。



【ダビデの嘘】 | サムエル27:10~11

アキシュが「今日は、どこを襲ったのか」と尋ねると、ダビデはいつも、ユダのネゲブ*とか、エラフメエル人のネゲブとか、ケニ人のネゲブとか答えていた。

ダビデは男も女も生かしておかず、ガテに一人も連れて来なかった。「彼らが『ダビデはこういうことをした』と言って、私たちのことを告げるといけない」と思ったからである。ダビデはペリシテ人の地に住んでいる間、いつも、このようなやり方をした。

*「南」の意味 → 南部の砂漠地帯を指すように。



【アキシュの信用】 | サムエル27:12

アキシュはダビデを信用して、こう思っていた。「彼は自分の同胞イスラエル人に、とても憎まれるようなことをしている。彼はいつまでも私のしもべでいるだろう。」

- ➔ アブラハムへの**約束の地の一部**ではある。
討ち取った民は、**聖絶**が命令されていた。
しかし、**偶像礼拝者の家臣**でいいのか？
- 神の約束を信頼するなら、王となるまで、
ダビデの命が奪われることはないはず!!



詩篇13篇

指揮者のために。ダビデの賛歌。

13:1 【主】よ いつまでですか。

あなたは 私を永久にお忘れになるのですか。

いつまで 御顔を私からお隠しになるのですか。

13:2 いつまで私は 自分のたましいのうちで

思い悩まなければならないのでしょうか。

私の心には 一日中悲しみがあります。

いつまで 敵が私の上におごり高ぶるのですか

13:3 私に目を注ぎ私に答えてください。

私の神【主】よ。私の目を明るくしてください。

私が死の眠りにつかないように。

13:4 「彼に勝った」と私の敵が言わないように。

私がぐらつくことを 逆らう者が喜ばないように。

13:5 私は あなたの恵みに拠り頼みます。

私の心は あなたの救いを喜びます。

13:6 私は【主】に歌を歌います。

主が私に良くしてくださいましたから。



II. 靈媒頼みのサウル

I サムエル記26章

ギルボア山

サウルとダビデの足取り

サウル

ダビデ

ギルボアに陣取る 28:4,29:1

霊媒に伺う 28:5~25

サウルの最後の夜

ペリシテとの戦い 31:1~13

ペリシテからの召集 28:1~3

ペリシテの先陣 28:4,29:1~2

引き帰されるダビデ 29:3~11

略奪された拠点の町 30:1~5

家族の奪還・凱旋 30:6~31

【ペリシテ軍への招集】 Ⅰ サムエル28:1～2

そのころ、ペリシテ人はイスラエルと戦おうとして、軍隊を召集した。アキシュはダビデに言った。「承知してもらいたい。あなたと、あなたの部下は、私と一緒に出陣することになっている。」

ダビデはアキシュに言った。「では、しもべがどうするか、お分かりになるでしょう。」アキシュはダビデに言った。「では、あなたをいつまでも、私の護衛に任命しておこう。」



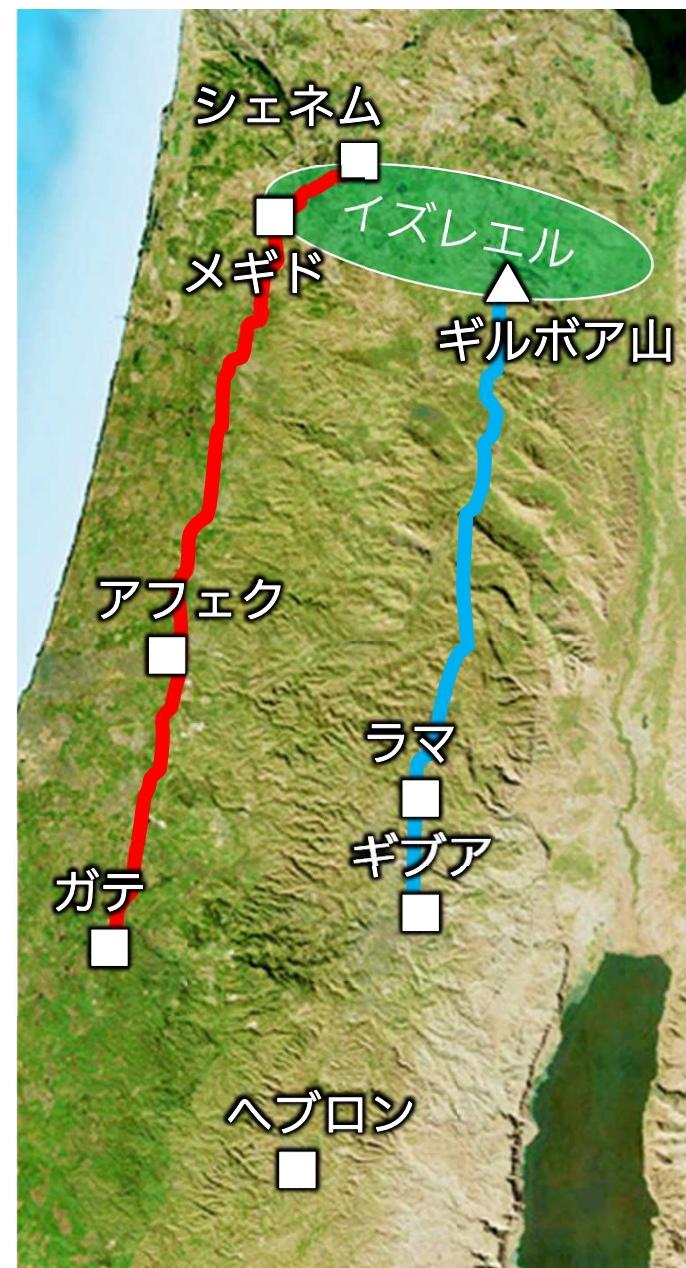
【にらみ合う両軍】 | サムエル28:3~4

サムエルはすでに死に、全イスラエルは彼のために悼み悲しみ、彼を彼の町ラマに葬っていた。一方、サウルは国内から霊媒や口寄せを追い出していた。

ペリシテ人は集まって、シュネムに来て陣を敷いた。サウルは全イスラエルを召集して、ギルボアに陣を敷いた。

■交通の要所、食料庫である**イズレエル**平原が、ペリシテの大軍との決戦の地に!!

➡サムエル亡き後の初めての**大戦**。



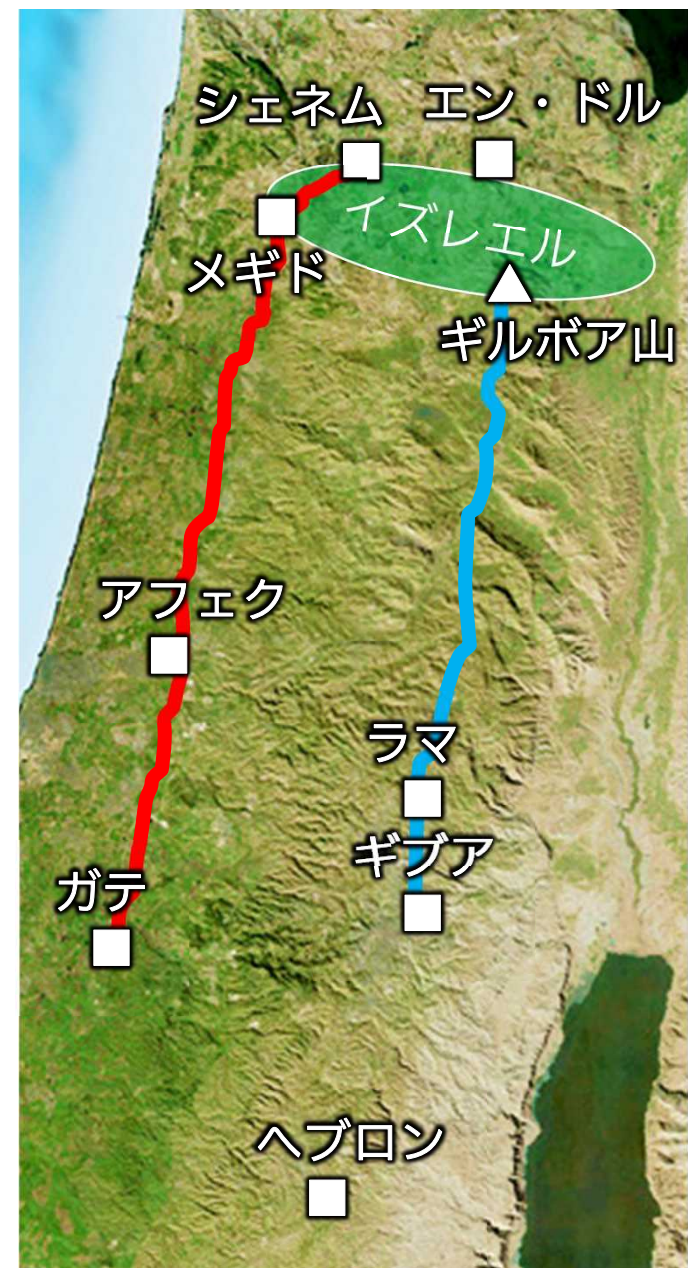
【恐れるサウル】 | サムエル28:5～6

サウルはペリシテ人の陣営を見て恐れ、その心は激しく震えた。サウルは【主】に伺ったが、【主】は、夢によっても、ウリム*によっても、預言者によってもお答えにならなかった。

サウルは家来たちに言った。「霊媒をする女を探して来い。私が彼女のところに行って、彼女に尋ねてみよう。」家来たちはサウルに言った。「エン・ドル*に霊媒をする女がいます。」

*ウリムはエポデと共にダビデの下にあった。

*敵陣の前の平原を横切った先。



【靈媒のもとで】 | サムエル28:8~10

サウルは変装して身なりを変え、二人の部下を連れて行った。彼らは夜、女のところにやって来た。サウルは言った。「私のために靈媒によって占い、私のために、私が言う人を呼び出してもらいたい。」

女は彼に言った。「あなたは、サウルがこの国から靈媒や口寄せを断ち切ったことをご存じのはずです。それなのに、なぜ、私のいのちに罫をかけて、私を殺そうとするのですか。」

サウルは【主】にかけて彼女に誓って言った。

「【主】は生きておられる。このことにより、あなたが咎を負うことは決してない。」



【現れたサウル】 | サムエル28:11~12

女は言った。「だれを呼び出しましょうか。」
サウルは言った。「私のために、サムエルを呼び出してもらいたい。」

女はサムエルを見て大声で叫んだ*。女はサウルに言った。「あなたはなぜ、私をだましたのですか。あなたはサウルですね。」

*ありえないことが起こった。

→本物のサムエルが現れた。

■死者の霊は、この世とは隔絶されている。
越境させられるとすれば、神しかいない。



【恐れるサウル】 | サムエル28:13~14

王は彼女に言った。「恐れることはない。何を見たのか。」女はサウルに言った。「**神々しい方***が地から上って来るのを見ました。」

サウルは彼女に尋ねた。「どのような姿をしておられるか。」彼女は言った。「年老いた方が上って来られます。外套を着ておられます。」サウルは、その人がサムエルであることが分かって、**地にひれ伏し、拝した***。

***偶像礼拝者の霊媒ならでの表現。**

***背後にある神の超自然的力を感じていたか。**



【サムエルの呼びかけ】 | サムエル28:15~16

サムエルはサウルに言った。「なぜ、私を呼び出して、私を煩わすのか。」サウルは言った。

「私は困りきっています。ペリシテ人が私を攻めて来るのに、神は私から去っておられます。預言者によっても、夢によっても、もう私に答えてくださらないのです。それで、私がどうすればよいか教えていただくために、あなたをお呼びしました。」

サムエルは言った。「なぜ、私に尋ねるのか。【主】はあなたから去り、あなたの敵になられたのに。」



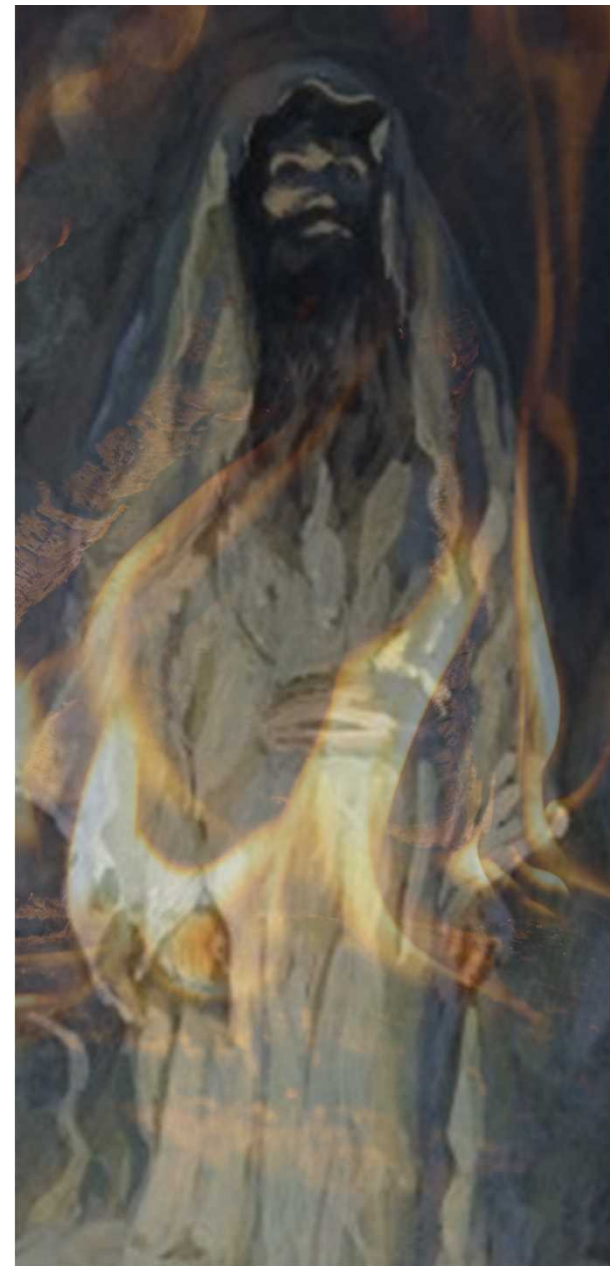
【サムエルの預言】 | サムエル28:17~18

「【主】は、私を通して告げられたとおりのことをなされたのだ。【主】は、あなたの手から王位をはぎ取って、あなたの友ダビデに与えられた。

*あなたが【主】の御声に聞き従わず、主の燃える御怒りをもってアマレクを罰しなかったからだ。それゆえ、【主】は今日、このことをあなたにされたのだ。」

*聖絶の命令に背いたサウルへの裁きの宣言

■主(ヤハウェ)の御名が七度繰り返され、即、完全に成就される。確かな神の業であるしるし。



【引導を渡すサムエル】 | サムエル28:19~20

「【主】は、あなたと一緒にイスラエルをペリシテ人の手に渡される。明日、あなたもあなたの息子たちも、私と一緒にいるだろう*。【主】は、イスラエルの陣営をペリシテ人の手に渡されるのだ。」

すると、サウルはただちに*地面に倒れて棒のようになり、サムエルのことばにおびえた。しかも、その日一昼夜、何も食べていなかったので、力は失せていた。

*サウルの死後の行き先は、サムエルと一緒に!!

*主の裁きの宣告により、打たれた状態。



救われている!!

【霊媒の申し出】 | サムエル28:21~22

女はサウルのところに来て、*サウルが非常におどろかしているのを見て彼に言った。「あなたのはしためは、あなたが言われたことに聞き従いました。私はいのちをかけて、あなたが言われたことばに従いました。今度はあなたが、このはしためが申し上げることをお聞きください。パンを少し差し上げます。それをお食べください。お帰りのとき、元気になられるでしょう。」

*霊媒が優位に立ち、主導権を握っている。



【霊媒のもとで】 | サムエル28:23~25

サウルはこれを断って、「食べたくない」と言った。しかし、彼の家来も女もしきりに勧めたので、サウルはその言うことを聞き入れて地面から立ち上がり、床の上に座った。

女の家には肥えた子牛がいたので、彼女は急いでそれを屠り、また、小麦粉を取って練り、種なしパンを焼いた。

それをサウルと家来たちの前に差し出すと、彼らは食べた。そしてその夜、彼らは立ち去った。

■これが、サウルの最期の晩餐となった。



詩篇109篇

指揮者のために。ダビデによる。賛歌。

109:1 私の賛美である神よ。

沈黙しないでください。

109:2 彼らは 邪悪な口と欺きの口を 私に向けて開き
偽りの舌をもって 私に語るからです。

109:3 彼らは 憎しみのことばで 私を取り囲み
ゆえもなく私に挑んできます。

109:4 私の愛に代えて 彼らは告発で応じます。
私は祈るばかりです。

109:5 彼らは善に代えて悪を
愛に代えて憎しみを 私に返しました。

109:6 どうか彼に対して 悪しき者を遣わし
告発する者が 彼の右に立つようになしてください。

109:7 彼がさばかれるとき 有罪が宣告され
彼の祈りが 罪と見なされますように。

109:8 彼の目数はわずかとなり その務めは他人が取り

109:9 子どもたちはみなしごとなり
妻はやもめとなりますように。

109:10 彼の子らは さまよいながら物乞いをし
荒れ果てた家を離れ 施しを求め続けますように。

- 109:11 金貸しが彼のすべての財産を没収し
見知らぬ者が 労苦の実を奪い取りますように。
- 109:12 彼には 恵みを施す者もなく
そのみなしごをあわれむ者もいませんように。
- 109:13 その後の子孫は断ち切られ
次の世代には 彼らの名が消し去られますように。
- 109:14 彼の父たちの咎が【主】に覚えられ
その母の罪が 消し去られませんかように。
- 109:15 それらがいつも【主】の御前にあり
主が 彼らの記憶を地から消されますように。

109:16 それは彼が恵みのわざを行うことに心を留めず
苦しむ者 貧しい者 心ひしがれた者を追いつめ
殺そうとしたからです。

109:17 彼が呪いを愛したので それは自分に返って来ました。
祝福を喜ばなかったので それは彼から遠く離れました。

109:18 衣のように彼は呪いを身にまとい 水のようにそれは
彼の内臓に 油のように骨にまでしみ込みました。

109:19 それが彼をおおう服となり
いつも締めている帯となりますように。

109:20 このようなことが 私を告発する者たちへの
【主】からの報いでありますように。
私のたましいに わざわいを告げる者たちへの。

- 109:21 しかし【神】よ 私の主よ あなたは
御名のために 私にみわざを行ってください。
御恵みのすばらしさのゆえに 私を救い出してください。
- 109:22 私は苦しみぞ して貧しく
私の心は 私のうちで傷ついています。
- 109:23 私は 伸びていく夕日の影のように去り行き
いなごのように振り払われます。
- 109:24 私の膝は断食のためによるけ
肉は削げ落ち 痩せ衰えました。
- 109:25 私は彼らのそしりの的となり
彼らは私を見て 頭を振ります。

109:26 私の神【主】よ 私を助けてください。

あなたの恵みによって 私をお救いください。

109:27 こうして 彼らを知るようにしてください。

これは あなたの御手。

【主】よ あなたがそれをなされたのだと。

109:28 彼らは呪います。しかし あなたは祝福して下さいます。

彼らは立ち上がり 恥を見ます。

しかし あなたのしもべは喜びます。

109:29 私を告発する者たちが侮辱を被り
恥を上着として身にまといますように。

109:30 私はこの口で 大いに【主】に感謝し
多くの人々のただ中で 主を賛美します。

109:31 主が貧しい人の右に立ち
死を宣告する者たちから彼を救われるからです。



Ⅲ. まとめと適用 霊媒と偶像礼拝の本質に学ぶ

ツィクラグ近郊の麦畑

【聖書における霊媒の取り扱い】

■聖書は一貫して、厳格に、霊媒・占いを禁止。

レビ記 20:6 霊媒や口寄せのところに赴き、彼らを慕って淫行*を行う者があれば、わたしはその人に敵対してわたしの顔を向け、彼をその民の間から断ち切る。

*淫行 → 霊的姦淫。霊媒は偶像礼拝の大罪。

申命記18:10～12 あなたのうちに、自分の息子、娘に火の中を通らせる者、占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死者に伺いを立てる者があってはならない。これらのことを行う者はみな、【主】が忌み嫌われるからである。これらの忌み嫌うべきことのゆえに、あなたの神、【主】はあなたの前から彼らを追い払われるのである。

【なぜ、霊媒、口寄せ、占いは禁じられているのか？】

■ この世と死者の世界は、神が厳格に分けており、交わり得ない。死霊も、悪霊も悪魔も、この境を越えることは決してできない。

■ 霊媒を通して現れる死霊、死者の言葉は、**すべて偽物**。

➔ 歴史上、唯一の例外が、サムエルの件。他には適用不可能。

■ 死者の言葉の実態は、①語り手の想像、思い込み。

②幻覚・幻聴

③**悪魔、悪霊の仕業**

➔ 口寄せ、霊媒が禁じられるのは、**悪霊・悪魔との交わり**だから。

【イエスの“ラザロと金持ちの話”の教え】 ルカ16:19～31

■ これはたとえ話ではない。➡イエスは、たとえで人名を用いない。

■ 不信仰で強欲な金持ちが、死後、よみに下った。虐げていた貧者が、“アブラハムの懐”にいるのを見た金持ちは、憐れみを乞うたが、よみにある両者の隔てすら、越えることは許されていなかった。金持ちは、残された子孫に警告することを求めたが、拒絶された。

ルカ16:31 『モーセと預言者たちに耳を傾けないのなら、たとえ、だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』

問われるのは、その時代に与えられた神の啓示を信じるか否か

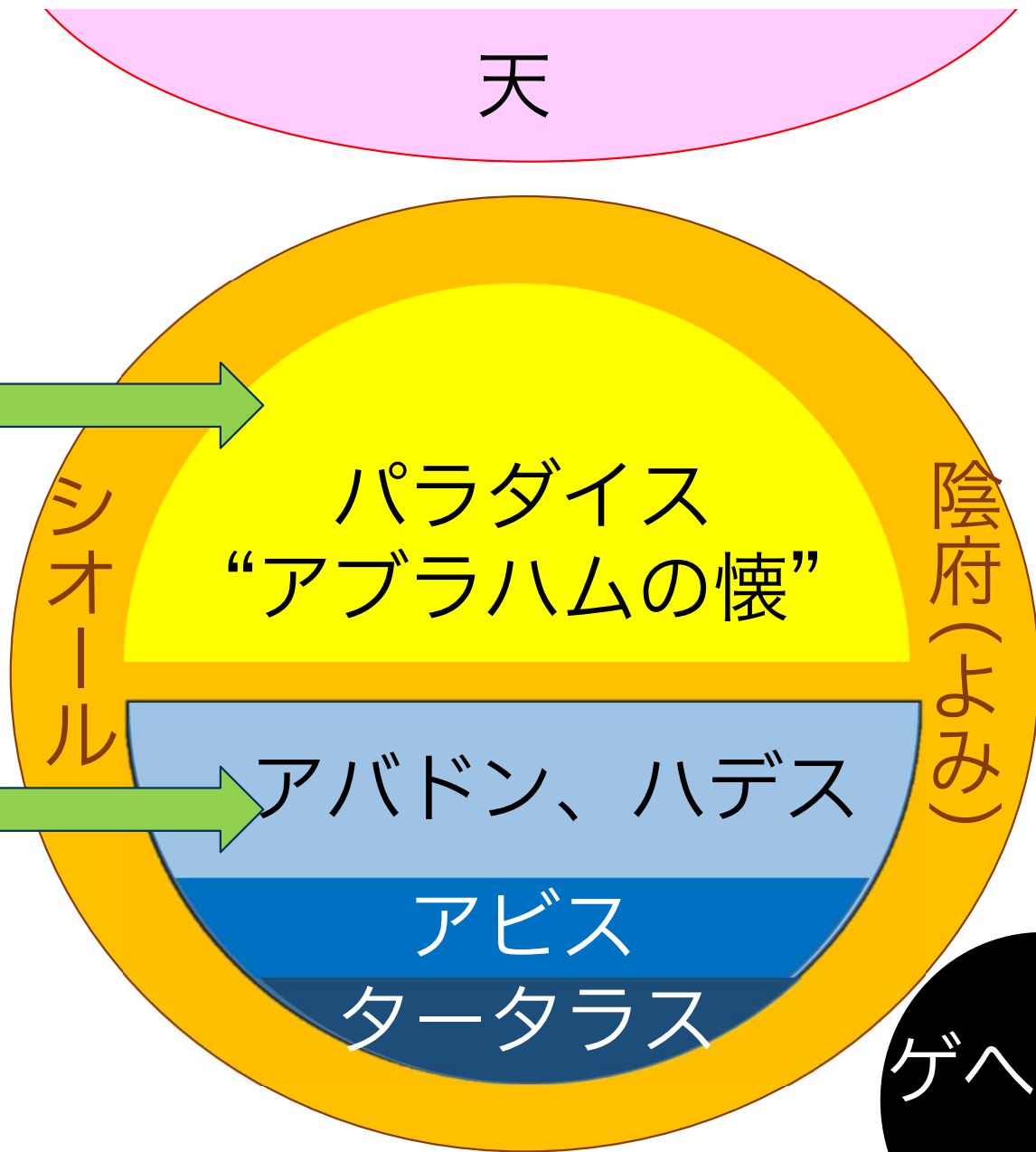
【死後の世界】

～イエスの復活前～

神様を信じた人



神様を信じなかった人



【死後の世界】

～イエスの復活後・今～

神様を信じた人

パラダイス
“アブラハムの懐”

天

神様を信じなかった人

シオール、陰府(よみ)

アバドン、ハデス

アビス

タータラス

ゲヘナ

【死後の世界】

～最後の裁きの後～

神様を信じた人

新天新地
天のエルサレム

神様を信じなかった人

ゲヘナ
火の池

【霊媒に現れたサムエルが本物だったと言える明確な理由】

- 霊媒の女自身が**驚愕**した。➡霊媒は自分の業には驚かない。
- サムエルが、**主(ヤハウェ)**の御名を七度、口にした。➡完全数。
- 以前の主の宣告と**一致**。➡聖絶に反したサウルからの王権剥奪。
- 宣告通り、**完全に成就**した。
➡翌日、サウルはペリシテに討たれて死んだ。イスラエルは敗北。
- 悪霊の仕業なら、聖書が読者を欺いていることに。➡ありえない。

【人はなぜ霊媒・口寄せの業に惹かれるのか？】

- 時代、文化、言語を越えて、人は霊媒、口寄せに惹かれてきた。
例) “スピリチュアルカウンセラー” より洗練された形での浸透。
- 人が霊媒に惹かれるのは、そこに**感動や慰めがある**から。
死と滅びの恐怖に目を背け、はかない希望を抱くことができる。
➡ 感動的な話だからこそ、否定の言葉も差し挟みにくい。
- 真実の神を離れた者には、霊媒は最後の希望。サウルのように。
しかし、そこに救いはない。厳格な神の裁きを逃れる術はない。

主の前に悔い改め、主を信頼する以外の救いの道は存在しない。

【形を変えて現れる、現代的偶像礼拝に惑わされないために】

■人間の感覚に訴える“現象”に惑わされないこと。

霊的現象が人を惑わすのは、そこに何らかの実体や感覚を伴うから。

➡それが、思い込みや幻覚でないなら、**悪魔、悪霊の仕業。**

■聖書に明記されたこと以外に、心を奪われないこと。

宇宙人、U F O…、新手の惑わしは尽きない。今後ますます増加。

➡現代人にとって、最大の偶像礼拝は**宇宙**につながっている。

聖書的に言えば、第二の天(=宇宙)は、悪魔の支配領域。

太陽、月、星、宇宙の現象は、今も昔も偶像崇拜の対象。

【求め、立ち続けるべきは、常に御言葉の真理のみ】

マルコ 12:30 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

■心、命、知性、力。感情も感覚も、理性も観察力も。与えられた特性をフル活用して、主を愛することが、人には求められている。

■愛することは、相手を正しく理解することから始まり、相手が真に求める行為によって実を結ぶ。

➡神の御言葉を正しく理解し、神の求める行いの実を結ぼう。

今告げるべきは救いの福音。解き明かすべきは御言葉の真理。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主を離(はな)れれば、簡単(かんたん)に 惑(まど)わされてしまう、
わたしがいます。

罪(つみ)を犯(おか)したときには、すぐに 悔(く)い改(あらた)める
ことができますように。

ただ主に信頼(しんらい)し、聖書(せいしょ)の正しい理解(りかい)に
立ち、福音宣教(ふくいんせんきょう)の使命(しめい)に 遣(つか)わ
してください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

鹿追教会のライブ配信のお知らせ

★イッピーとかち こどものつどい

2021年7月17日(土)13時半より

★Youtubeバイブルスタディ

2021年7月13日(火)10時から